

概要

日程：2019年5月6日（月）～5月13日（月）

6～7日：執筆者会合、8～12日：第49回総会、13日：記者会見（成果公表）

場所：京都市 国立京都国際会館

参加：IPCC及びその作業部会等の議長、執筆者、各国政府の担当官等、約400名

成果：**「IPCC温室効果ガス排出・吸収量算定ガイドライン(2006)」の改定**

我が国の対応

- 8日開会式に原田環境大臣より歓迎挨拶（ビデオメッセージ）を行うなど、ホスト国として会合の成功をサポート
- 11日、IPCC総会開催記念シンポジウムに原田大臣が出席し、京都市長等地域の関係者と共に「**1.5℃を目指す京都アピール**」を採択。1.5℃目標を視野に、**今世紀後半のできるだけ早期に脱炭素社会の実現を目指し、京都の関係者等が「2050年頃までに正味排出ゼロ」に向けて取り組む決意を宣言。**



原田大臣による
ビデオメッセージ



京都アピールの
歓迎のお言葉を
述べる原田大臣、
お隣は門川京都
市長

「IPCC温室効果ガス排出・吸収量算定ガイドライン(2006)」改良報告書

- IPCCガイドラインは、**パリ協定の透明性を支える重要なもの**。パリ協定では、すべての国が、IPCCガイドラインに基づき排出量を算定することに合意。
- **最新の知見を踏まえた今回の報告書（いわゆる『京都ガイドライン』）により、途上国を含むすべての国のパリ協定に基づく排出量算定・報告の改善・精度向上が期待される。**

■ 報告書のポイント

- パリ協定の採択等を受け、技術の進展や科学的知見の集積を踏まえて2006年版ガイドラインを追加・更新（例：水素製造、レアメタル製錬など新たな工業分野の追加。農業・林業・土地利用、廃棄物など知見が少なかった分野の算定方法の改善）
- 各国の排出量の精度向上に衛星データを活用することが初めて記載された。その中でも10年以上に渡り全球規模で観測を続けている我が国の「いぶき」の活用例が多く記載され、「いぶき」及び「いぶき2号」の**世界各国の排出量の精度向上への期待が示されている。**

■ 我が国の貢献

- 作業を支える「技術支援ユニット」をIGESに設置（1999年～）し、20年間にわたりホスト。**日本の専門家（田辺清人IGES上席研究員）がガイドライン改定作業の共同議長**を務めた。
- 工業プロセス（鉄鋼・半導体・冷凍空調機器・水素製造）、廃棄物、及び農業・林業等部門の改定作業に、日本の産業界や研究者が貢献（約200名の執筆者のうち**14名が日本から参加（世界で2番目の人数）**）

(参考) 温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT*)シリーズ

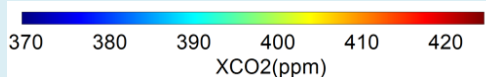
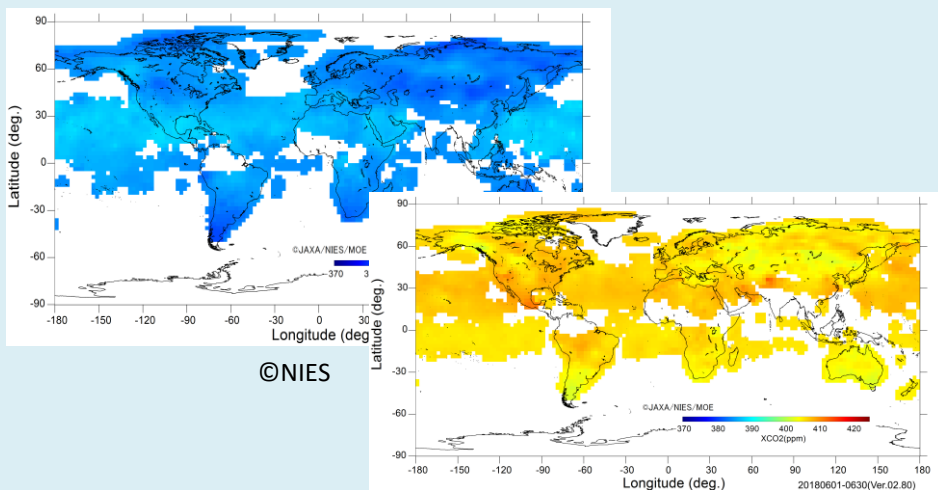
※GOSAT: Greenhouse gases Observing SATellite

- 「いぶき」1号機は2009年1月に打上げられ10年以上を経過した現在も継続運用中
- 後継機「いぶき2号」は2018年10月29日(月)打上げに成功し、2月より**定常運用を開始**

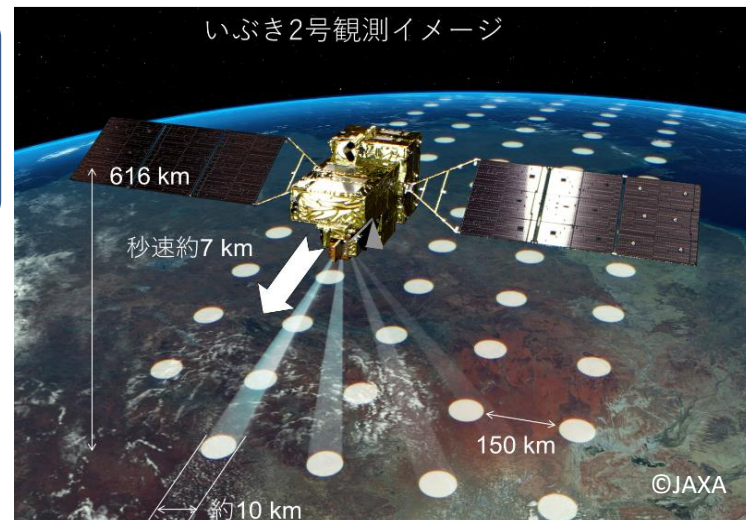
「いぶき」シリーズの目的

- 気候変動に関する科学の発展への貢献
- 気候変動政策への貢献(脱炭素社会開発の推進)

「いぶき」の成果



6月のCO₂濃度分布(例)
(左:2009年、右:2018年)



- ### 「いぶき」
- ・設計寿命:5年
 - ・観測対象:CO₂、CH₄等
 - ・観測精度:4ppm(CO₂)、34ppb(CH₄)
(陸域1000km四方、3か月平均換算)

- ### 「いぶき2号」
- ・設計寿命:5年
 - ・観測対象:CO₂、CH₄、CO(新規)等
 - ・観測精度:0.5ppm(CO₂)、5ppb(CH₄)
(陸域500km四方、1か月平均換算)